

中学校における、生きる力を育む保健体育科の 指導と評価について

ー ライフスキル・ルーブリックを活用して ー

学籍番号 199309

氏名 大西翔太

大学院主指導教員 小川剛司

1. 背景

我が国の教育指針の根幹として長年の普遍的概念であると言える「生きる力」は、平成29年改訂の新学習指導要領においてもその育成が目標として掲げられ、新学習指導要領では「生きる力」に基づいた、各教科の目標や内容の再整理がなされた。中学校保健体育科の目標には「生涯にわたって心身の健康を保持増進」という記述があり、これは、健康に関わる内容を単に記憶として留めることではなく、生徒が現在および将来の生活において、科学的な思考と正しい判断のもとに適切な意思決定、行動選択を実践していくことまでを意味するものであるとされている。

行動変容に繋がる健康教育についてWHOは、行動変容を促すには知識の定着では不十分であり、「日常生活に生じるさまざまな問題や要求に対して、より建設的かつ効果的に対処するために必要な能力」であるライフスキルの習得が重要であることを示している。また、新学習指導要領における「生きる力」の三つの柱の内容を読み解くと、ライフスキルとの重なりが大きいことが見出され、保健体育科の目標と生きる力の両方の観点から、ライフスキル教育の重要性が伺われるものの、それらの育成に向けた指導や評価の在り方については多く示されていないのが現状である。

2. 目的

以上の背景から、保健教育においてライフスキル教育の実践が重要であるが、1) 学校でのライフスキル教育に関する指導と評価の実践報告が少なく、ライフスキルの評価法が確立していない、そのため、2) ライフスキル教育の観点に立脚した授業を行ったとき、教員がライフスキル教育の効果について検証できないことが課題として明らかとなった。そこで本研究では、「生きる力」の育成と保健体育科の目標の達成に向けて、生徒たちの学びの状況をライフスキルの観点から評価することを効果的にするためのライフスキル・ルーブリックの作成とライフスキル・ルーブリックを用いた授業実践を通じたその有用性の検証を目的とした。

3. 研究の手法

本研究で用いたライフスキル・ルーブリックは、米国大学協会(AAC&U)によって提案されたVALUEルーブリックを基に、実習校にローカライズされたルーブリックを作成するという方針での作成を行った。ライフスキル・ルーブリックにおける評価項目としては、ライフスキルを構成する10の要素についての13項目に、実習校において育成を目指す資質・能力の2項目を加え

た計15項目を設定した。また、授業者によるルーブリック評価用紙の項目は①評価活動の持続可能性、②内容の妥当性の2観点と③自由記述欄とした。ルーブリックを活用した授業実践は実習校の2年生を対象に1授業、3年生を対象に1授業の計2授業を実施し、それぞれの授業におけるルーブリックの活用状況について授業者が評価用紙に記入する形でその有用性の検討を行った。

4. 結果と考察

2つの授業実践におけるルーブリックの評価として「評価活動の持続可能性」の観点ではルーブリックの内容が複雑であり、生徒1人を評価するのにかかる時間が大きいことや、単一授業で評価を実施できる項目が多くないことが挙げられた。また、授業計画段階における評価活動のタイミングや所要時間の見通しなど、授業づくりの段階での課題も見られた。教員が授業を進める中で評価を実施することが難しいという課題の解決に向けては、複数教員が授業に入ることのできる環境であれば、授業を実施する教員とは別に、評価活動を行う教員を設定するという手段が提案されたが、多くの教員が同一のライフスキル・ルーブリックを用いるという状況においては、教員ごとの評価結果が大きく出すぎないような評価基準の表現となっているか、また教員間での評価に関する共通理解が図れているかなどの留意点が考えられるのではないだろうか。「内容の妥当性」の観点では、本研究の授業実践では課題点は見つからなかった。

ライフスキルが「生きる力」と深く関わっていることを踏まえると、ライフスキル・ルーブリックは保健体育科の授業のみならず、教育活動全体を通して、教科横断的に活用していくことも可能なのではないだろうか、そのための具体的な運用方法の改善案の一例として、ここではライフスキル・ルーブリックの電子ポートフォリオ化を挙げた。これにより、生徒の学びの軌跡を振り返りやすくすることで、効率的に授業や生徒の評価に用いることができるようになることや、「社会に開かれた教育課程」に向けて教育活動の説明責任を果たす際にも利用することが可能となるのではないだろうか。

5. まとめ

本研究では、生徒の「生きる力」を効果的に育成するための、ライフスキル・ルーブリックの作成と、それをを用いた授業実践を、実習校の状況に即した形で行った。その結果としてライフスキル・ルーブリックが生徒の学びの状況をライフスキルの視点から評価するためのツールとして、育成を目指す生徒像を教員が即座に確認できるツールとして有効であることが確認された。また、授業実践においてライフスキル・ルーブリックを用い、その検証を行ったことで、改善点が見出された。

ライフスキル・ルーブリックの運用に際しては、ライフスキルが「生きる力」と重なる部分が多い概念であるものの、新学習指導要領において育成を目指すことが示されているのはあくまでも「生きる力」であることを念頭に、学校教育活動の実施、評価、改善を補助するツールとしてとらえる必要がある。そうして、保健体育科の目標である「生涯にわたる心身の健康の保持増進」に向けた資質・能力の育成だけでなく、我が国の学校教育において長年その育成が目指されている「生きる力」にも影響を与えるライフスキルが、今後学校現場においてさらに認識され、ライフスキルを活用した指導や評価がさらに充実することにより、子供たちがさらに充実した教育を受けられることが望まれる。